

3 みやこ構想の推進状況

京都府では、京都府域の北から南まで、すべての地域が活力ある「みやこ」として輝くことができる地域づくりを進めるため、中期計画及び地域振興計画の主要プロジェクトとして、15の「みやこ構想」を位置づけ、推進している。

以下に、みやこ構想指標の動き、各構想の取組状況や今後の課題を示す。

みやこ構想指標

※「指数」は、基準値(原則、2011年度の数値)を1として、2016年度の数値を割戻し指数化したもの

※「分野」は、各地域振興計画の施策の基本方向から主な分野をカテゴリー化したもの

1 丹後・食の王国構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
「丹後あじわい食」提供店数	25事業者 (春の丹後ばらずし月間)	51事業者 (丹後ばらずし、丹後あじわい食と地酒、丹後の酒蔵、長寿弁当・御膳)	2.04	観光誘客
「丹後あじわい食」のメニュー数	25メニュー (春の丹後ばらずし月間)	62メニュー (丹後ばらずし、丹後あじわい食と地酒、丹後の酒蔵、長寿弁当・御膳)	2.48	観光誘客
着地型旅行商品の参加者数	700人	15,313名	21.88	観光誘客
食品関連企業の立地件数	食料品製造業35事業所 (2010年12月31日現在、従業員4人以上) 食品衛生許可施設3,024施設、うち製造業494施設	食料品製造業37事業所 (2012年2月1日現在、従業員4人以上) 食品衛生許可施設2,937施設、うち製造業504施設 ※2014経済センサスは調査集計中(H29.12公表予定)	1.02	ものづくり振興

2 日本海観光構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
観光入込客数 (丹後+舞鶴市)	約678万人	約845万人※H28.1~12までの数値	1.25	観光誘客
外国人宿泊客数 (丹後+舞鶴市)	約1万1千人	約4万2千人※H28.1~12までの数値	3.82	観光誘客
観光消費額 (丹後+舞鶴市)	約185億円	約220億円※H28.1~12までの数値	1.19	観光誘客
クルーズ船の寄港数 (国外・国内)	4回	17回	4.25	観光誘客

3 京都舞鶴港ランドブリッジ構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
国際フェリー航路数	なし	日韓露航路週1便	2.86	商流・物流拡大
国際海上コンテナ航路数	中国航路週1便 韓国航路週1便	中国航路週1便 韓国航路週2便	1.50	商流・物流拡大
クルーズ船の寄港数	外国船 なし 国内船 4回	外国船 13回 国内船 4回	4.25	観光誘客
コンテナ取扱量	8,441TEU (うち実入り 5,902TEU)	11,493TEU	1.36	商流・物流拡大
貿易取扱量	1,092万6千トン	1,082万9千トン	0.99	商流・物流拡大

4 北京都ものづくり拠点構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
製造品出荷額等(中丹地域)	4,974億円(2010年)	549,003百万円 ※工業統計の最新確定値(H26年度末)	—	ものづくり振興
付加価値率(従業員4人以上)	47.1%(2010年)	45.5% ※工業統計の最新確定値(H26年度末)	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)
生産工学(IE)研修等の参加者数	3,311人	3,917名	1.18	人材育成
地域連携ものづくり新製品開発数	5件	3件	0.60	価値創出(商品・コンテンツ開発)
中小ものづくり企業と進出大企業等とのマッチング件数	0件	5件	2.86	ものづくり振興

5 由良川里山回廊構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
スポーツトレイル(SEA TO SUMMIT)の参加者数	3,077人 (2015年度)	4,060人	1.32	観光誘客
U・I・Jターン等による定住者数	62人	107人	1.73	地域交流
モデルフォレスト運動への参加者数	337人	1,201人	3.56	自然・環境・文化
ふるさと保全活動への参加者数	1,029人	1,155人	1.12	地域交流
地域食材を活用・提供する農家民宿数	9軒	25軒	2.78	観光誘客 地域交流

6 京都丹波「食と森の交流の都」構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
教育体験旅行の年間受入数	5校 340人	53校 3,259人	9.59	地域交流 観光振興
受入れ農家・団体数	20	287	14.35	地域交流 観光振興
農家民宿開設数	4軒	18軒	4.50	地域交流 観光振興

7 新京都伝統工芸ビレッジ構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
京都新光悦村立地企業数	5件	6件	1.20	ものづくり振興
京都新光悦村等に滞在し作品制作を行う作家、民間デザイナー等の人数	3人	3人	1.00	人材育成
京都新光悦村を訪れる交流人口(年間)	14,000人	26,042人	1.86	地域交流

8 北山文化環境ゾーン構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
府立植物園年間入園者数	702,011人	840,176人	1.20	自然・環境・文化 観光振興
総合資料館、植物園等における府民向けイベント・シンポジウム・公開講座等の開催回数	191回	267回	1.40	自然・環境・文化

9 京都クロスメディアパーク構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
京都発企画の映画・映像事業化支援件数	5件	10件	2.00	価値創出(商品・コンテンツ開発)
KCC等で活動する若手クリエイター数	42人	90名	2.14	人材育成
「KYOTO CMEX」の参加者数	77,179人	102,248名	1.32	観光誘客 地域ブランド化
子ども対象の府民向けワークショップ等の参加者数	305人	815名	2.67	人材育成

10 知恵産業首都構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
「知恵の経営」実践モデル企業認証数	73件	185件	2.53	地域ブランド化 価値創出(商品・コンテンツ開発)
「Kyoto Japan」ロゴマーク活用事業所数	0件	222件	2.86	地域ブランド化
元気印認定企業数	105件	233件	2.22	地域ブランド化 価値創出(商品・コンテンツ開発)
経営革新承認企業数	500件	671件	1.34	地域ブランド化

11 京都乙訓ダイナミックシティーズ構想

指標	基準値(2014年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
地域内総生産(GRP)	5,692億円 (2011年度)	(25年度推計:5,092億円)	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)
製造品出荷額	5,280億円 (2013年末)	(26年速報:5,266億円)	—	ものづくり振興
「竹」関連プロジェクト参加者数	0人	22人	2.86	地域ブランド化
多目的型の新しいツーリズム参加者数	172人	343	1.99	観光誘客
観光入込客数	1,963,318人 (2014年末)	2,158,402人※H28.1～12までの数値	1.10	観光誘客
一人当たりの観光消費額	379円 (2014年末)	378円※H28.1～12までの数値	1.00	観光誘客
鉄道乗車人員数(10駅の1日当たり乗車人員の合計)	85,769人 (2013年度)	(27年度:93,151人)	—	地域交流

12 宇治茶の郷づくり構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
茶生産額	70億円	83.6億円	1.19	地域ブランド化
宇治茶PRイベントへの集客数	8,203人	76,529人	9.33	地域ブランド化 観光振興
「宇治茶の郷メールマガジン」の登録者数	0人	606人	2.86	地域ブランド化

13 京都イノベーションベルト構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
企業の新規立地件数	21件	17件	0.81	ものづくり振興
製造品出荷額等 (京都市・山城地域)	40,958億円	(2014年度:38,694億円) 次回(2015年度)調査数値の 確定は2017.12頃	—	ものづくり振興
付加価値率(従業員4人以上) (京都市・山城地域)	39.9%	(2014年度:34.9%) 次回(2015年度)調査数値の 確定は2017.12頃	—	価値創出(商品・コ ンテンツ開発)

14 学術研究・未来の都構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
研究機関及び研究開発型企業の立地 件数	60件	78件	1.30	価値創出(商品・コ ンテンツ開発)
海外のサイエンスパークとの交流活動 回数	10回	15回	1.50	価値創出(商品・コ ンテンツ開発)
太陽光発電設置数	74件	254件	3.43	自然・環境・文化
HEMS(ホームエネルギーマネジメン トシステム)やBEMS(ビルエネルギー マネジメントシステム)の機器設置数	51件	231件	4.53	自然・環境・文化
電気自動車導入数	60台	100台	1.67	自然・環境・文化

15 環境・アグリバイオパーク構想

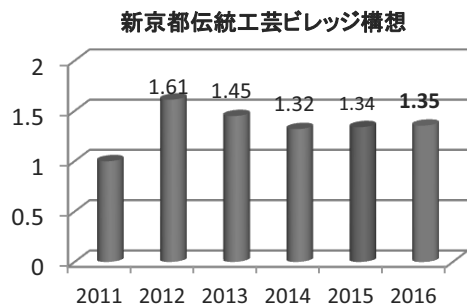
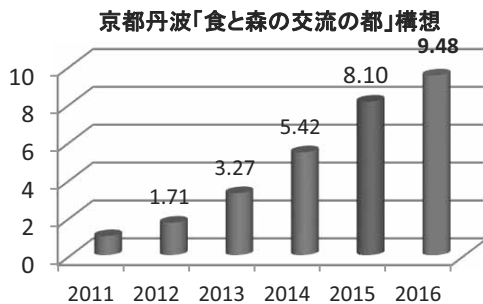
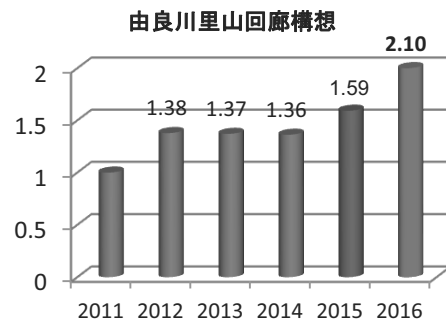
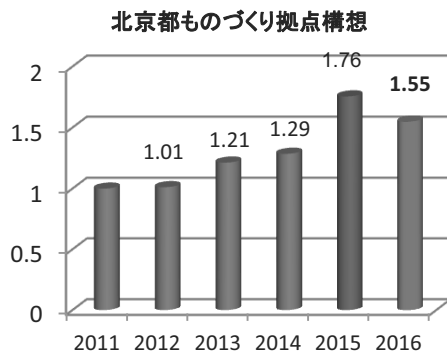
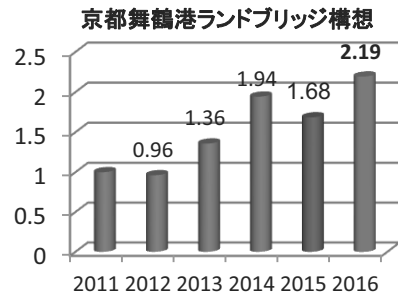
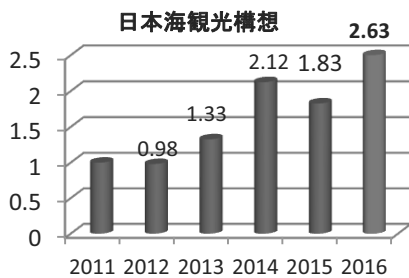
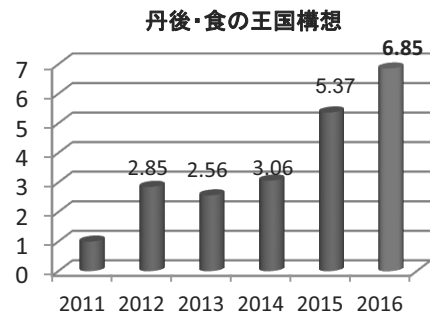
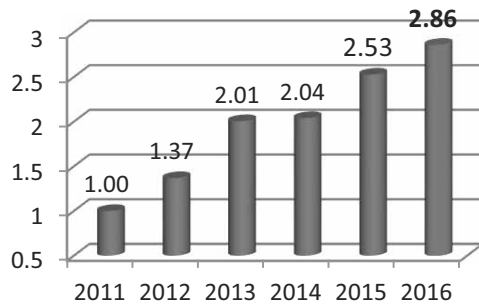
指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2016年度末数値)	指数	分野
アグリバイオ関連研究機関及び研究開 発型産業施設の立地件数(府域)	5件	8件	1.60	価値創出(商品・コ ンテンツ開発)
次世代型植物工場等における新製 品・新技術等開発件数	0件	1件	2.86	価値創出(商品・コ ンテンツ開発)
関連分野の研究者数	21人	20人	0.95	人材育成
アグリバイオ関連産業の生産高	0円	0円	—	価値創出(商品・コ ンテンツ開発)

みやこ構想指標の進捗状況

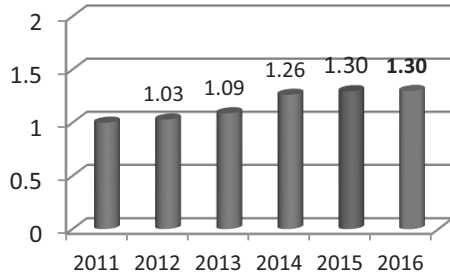
＜2016年度の状況＞

- ・「全体」では指数が2.86と、前年度から0.33ポイント上昇
- ・「構想別」では、12構想で指数が上昇し、2構想が下降、残りの1構想は前年度並
- ・「地域別」では、6地域全てで指数が上昇
- ・「分野別」では、6分野で指数が上昇し、2分野で下降

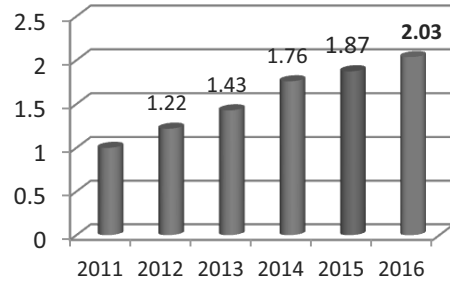
指標全体



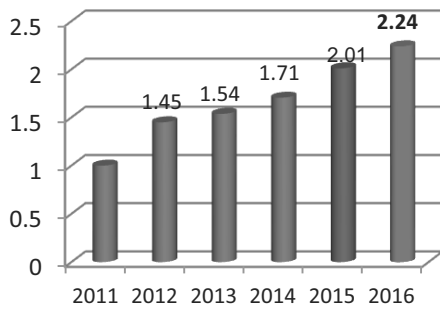
北山文化環境ゾーン構想



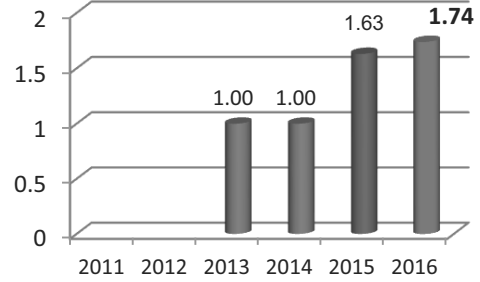
京都クロスメディアパーク構想



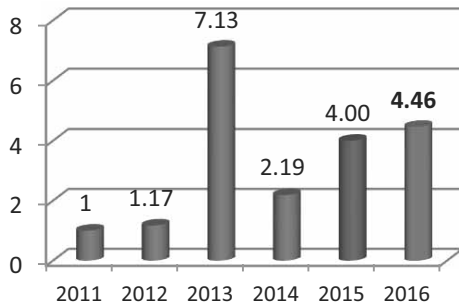
知恵産業首都構想



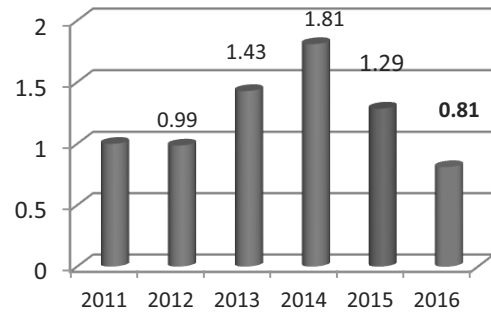
京都乙訓ダイナミックシティーズ構想



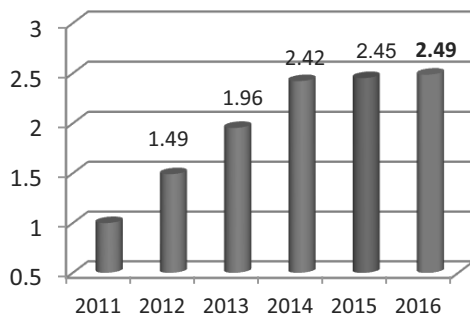
宇治茶の郷づくり構想



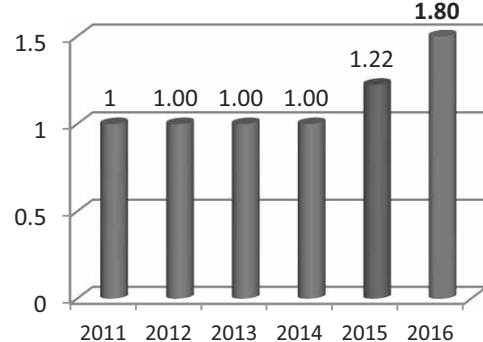
京都イノベーションベルト構想

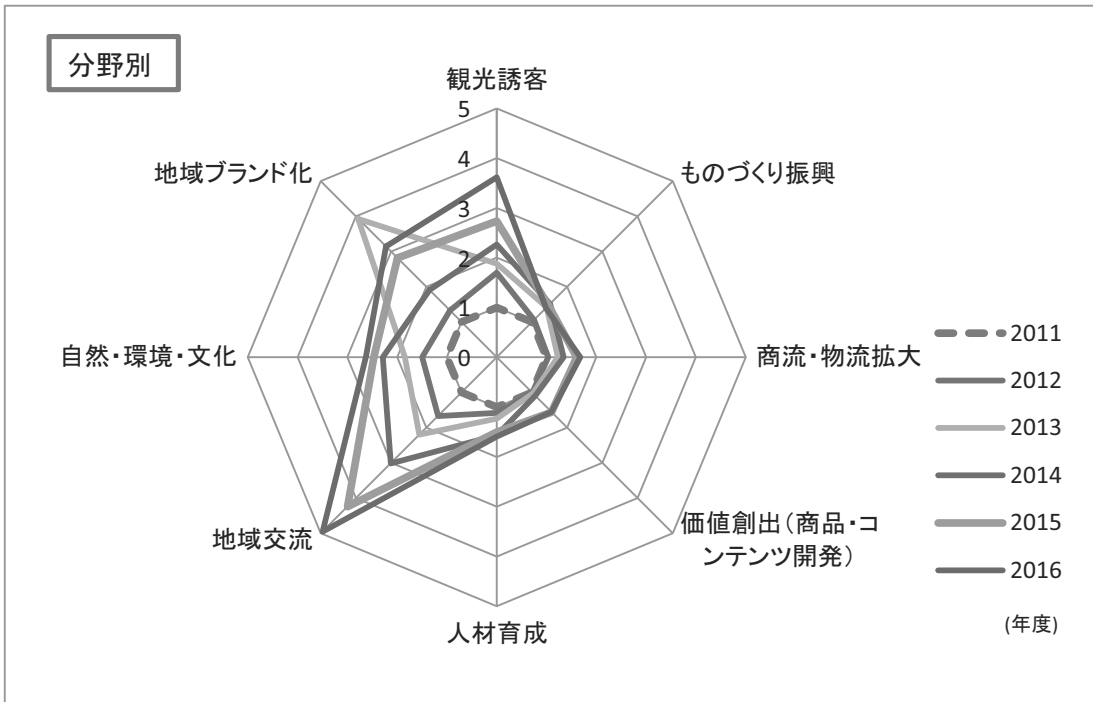
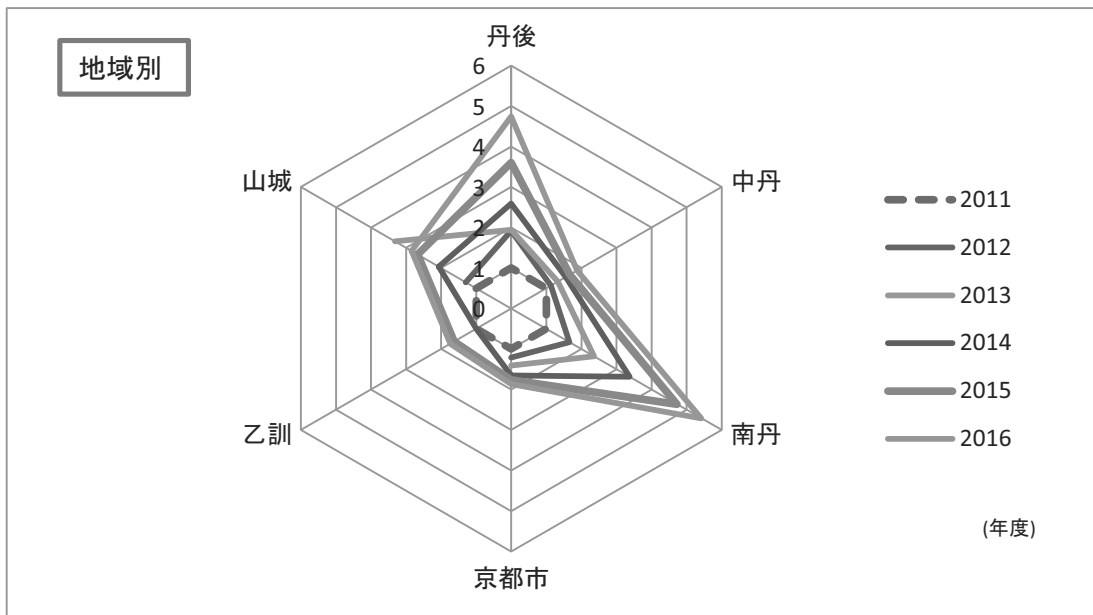


学术研究・未来の都構想



環境・アグリバイオパーク構想





主たる影響分野			
観光誘客	ものづくり振興	商流・物流拡大	価値創出(商品・コンテンツ開発)
人材育成	地域ブランド化	地域交流	自然・環境・文化

みやこ構想

1 丹後・食の王国構想

①構想の概要

丹後・食の王国構想のもと、丹後の豊かな食材を活かし、高品質でブランド力の高い商品の開発など、食関連ビジネスの創出等を進めます。

<主たる目標>

- 京都「丹後」に行けば、四季折々の季節を感じる旬の野菜、新鮮なさかな等を味わうことができるというイメージが全国で定着し、丹後の食を味わうために多くの人々が丹後を訪れるとともに、「食関連産業」が地域経済を牽引する新たな産業として成長し、地域に定着する若者が年々増えていること

②実施状況

<主な取組状況>

- 丹後10次産業化拠点「丹後王国『食のみやこ』」の展開
 - 「食」に関わる加工、販売、観光おもてなしなどの人材育成
 - ・海の京都・食人材学舎研修を実施（計21回、延べ102名参加）
 - ・高校生レストラン開店（運営研修（3回）、開店（10/16））
 - ・大学生インターンシップ事業の実施（5日間、2大学8人参加）
 - 人材育成、観光おもてなし、販売機能の強化等のための施設整備
 - ・丹後王国「食のみやこ」の施設改修（通路雨よけ、駐車場等整備）を実施（駐車場10月、通路雨よけ3月完了）
 - ・食と文化・観光の異業種交流を促進するため、丹後王国「食のみやこ」に多目的交流ホール等の整備を調整
- 「海の京都」構想とも連動した、食関連ビジネスの展開
 - 丹後地域の「食」の魅力のPR
 - ・都市部での丹後うまいもんフェア開催（名古屋市：イオン大高店、京都市：イオン桂川店など）
 - ・海の京都と連携したイベントの開催（丹後グルメフェア、道一1グランプリ、来場者百万人感謝祭など）
 - ・丹後の地酒魅力発信支援
 - 食関連産業の連携・交流によるビジネスチャンスの創出
 - ・「食」の魅力を売込む商談会出展（フードセレクション）
 - ・ホテル、旅館などへの丹後産食材の売込み（ホテルグランヴィア京都など）
 - ・丹後王国の愛菜館は、113農家と契約。直売、園内利用に加え、地元料理店や京都市内のレストラン等21軒へ卸売

<今後の課題>

- 丹後10次産業化拠点「丹後王国『食のみやこ』」の展開
 - ・丹後王国「食のみやこ」の収益改善
 - ・「食」に関する人材育成の本格化

- ・ 農業者と地域事業者の学びや異業種交流の場の創設
- ・ 丹後地域の地域活性化への貢献
- 「海の京都」構想とも連動した、食関連ビジネスの展開
 - ・ 丹後産食材や加工食品の販売強化
 - ・ 丹後王国「食のみやこ」の観光案内機能強化と食を活かした誘客促進
- 丹後地域の「食」の魅力PR
 - ・ PR活動、フェアより踏み込んだ取組の検討
 - ・ 点在する食関連産業の融合

2 日本海観光構想

① 構想の概要

山陰海岸ジオパークや天橋立等の自然、伊根の舟屋、ちりめん街道等の町並、ロマンあふれる丹後の歴史と文化などの資源を活かすとともに、「食」関連産業とのリンクにより、観光誘客を推進します。

<主たる目標>

- 京都舞鶴港に毎年多くのクルーズ船が寄港するとともに、天橋立や伊根の舟屋、夕日ヶ浦やちりめん街道等の魅力ある観光拠点を擁する「海の京都」のエリアに国内外から多くの観光客が訪れ、日本海観光を満喫していること

② 実施状況

<主な取組状況>

- 「海の京都DMO」の設立
地域の総力を結集して、「海の京都DMO」を設立(H28.6.29)し、観光地域づくりを効果的かつ強力で推進
- 「海の京都博」後祭の実施
「海の京都」のコンセプトである「天地山海にいきづく和の源流」の更なる発信と定着のため、地域に伝わる羽衣伝説をモチーフとしたウォータープロジェクションショーを「海の京都博」の盛り上がりを引き継ぐイベントとして実施
(来場者：18,300人)
- 広域観光交流圏の形成
京都府・兵庫県・鳥取県の3府県で連携し、ユネスコ世界ジオパークに認められた日本海側地域の観光資源を結ぶ長期滞在型の広域観光交流圏形成に向け、外国人観光客誘致旅行者受入促進に向けて、香港・フランスのプロガーを招請し、ファミトリップを実施
- 観光地域づくりの推進
魅力ある景観形成を進める「地域構想推進美観事業」、スポーツ観光を受け入れる地域づくり「TANTANロングライド2016」(参加者：1,527人)開催の支援等を実施
- 外航クルーズ(人流)
 - ・ クルーズ船 寄港回数 17回で過去最高
 - ・ クルーズ船乗客数 22,200人
 - ・ おもてなし企画の実施回数 10回

<今後の課題>

- 「海の京都DMO」を中心に関係団体が連携し、ブランド観光圏の認定に向けた活動の実施
- 外航クルーズ（人流）
増加する寄港回数、乗客数を、北部観光への誘客、地域経済への更なる波及に繋げる

3 京都舞鶴港ランドブリッジ構想

①構想の概要

日本海側拠点港である京都舞鶴港を核として、関西一円とアジア・ヨーロッパ地域とを結ぶ壮大な国際ランドブリッジの形成をめざし、物流のルートを開拓・構築しながら、国際フェリーや外航クルーズの基地化・エコポートの推進、京都舞鶴港ベイサイドパーク内への企業誘致の促進などに取り組みます。

<主たる目標>

- 港湾周辺に物流関連企業の集積が進むとともに、京都府はもとより関西一円の企業が対岸諸国との交易に積極的に利用することで、京都舞鶴港が名実ともに関西経済圏における日本海側の物流・人流の中核拠点となっていること

②実施状況

<主な取組状況>

- 国際フェリー（物流・人流）
 - ・取扱コンテナ量 481TEU（対前年比 約1,200%）
- 国際海上コンテナ（物流）
 - ・取扱コンテナ量 11,493TEU と過去最高を記録
 - ・平成29年2月に、韓国船社2社がアライアンスを組み、共同配船を開始
- 外航クルーズ（人流）
 - ・クルーズ船 寄港回数 17回で過去最高
 - ・クルーズ船乗客数 22,200人
 - ・おもてなし企画の実施回数 10回

<今後の課題>

- 国際フェリー（物流・人流）
 - ・船会社の船舶購入による直行航路の開設
 - ・メインカーゴとなる貨物の集貨
- 国際海上コンテナ（物流）
 - ・集貨促進のための制度充実
 - ・戦略的な集貨活動の展開
 - ・京都舞鶴港周辺での立地促進
- 外航クルーズ（人流）
 - ・増加する寄港回数、乗客数を、北部観光への誘客、地域経済への更なる波及に繋げる

4 北京都ものづくり拠点構想

①構想の概要

福知山、舞鶴、綾部にある工業集積と、大学や高等専門学校等の人材育成機関を活かしながら、京都北部におけるものづくり産業の中核拠点の形成をめざし、企業活動の支援やイノベーションによる企業成長支援、新たな企業の誘致、高度なものづくり人材の確保・育成、産学公連携共同研究開発の促進などに取り組みます。

<主たる目標>

- 技術力の高い特色ある中小ものづくり企業が集積し、府北部地域の大企業や京都イノベーションベルト等に立地するベンチャー企業等と緊密な協力関係を構築するなど、京都のものづくり産業にとって不可欠な地域を形成するとともに、農林水産物等の資源とものづくり技術の融合により新商品開発を図る農工連携ビジネスの一大拠点となっていること

②実施状況

<主な取組状況>

- 技術支援及び経営支援
 - ・技術指導 ⑳1,454件 (㉑1,562件)
 - ・機器活用セミナー、材料解析セミナー⑳12回53人 (㉑11回57人)
 - ・機器貸付 ⑳2,476時間 (㉑2,440時間)
 - ・高度化セミナー、意識改革セミナー ⑳6回39人 (㉑5回29人)
 - ・新分野進出研究会 ⑳12回197人 (㉑13回79人)
- 産学公連携支援、人材教育
 - ・産学連携セミナー ⑳6回79名 (㉑7回79人)
 - ・人材教育セミナー ⑳26回225名 (㉑26回299人)
- 中丹地域企業立地件数
⑳1件 (㉑6件)
- 「北部産業創造センター（仮称）」の整備
 - ・府、綾部市、工織大、グンゼの4者による合意
 - ・具体的なハード設計に着手するとともに、建設及び維持に要する費用等について調査を実施

<今後の課題>

- 企業間・産学連携の促進、新規分野への進出支援
 - ・幅広いものづくり企業、高度な研究開発を行う大企業、大学等が立地する環境を活かした産学公連携等による開発プロジェクトの創出
 - ・先端産業やIoT技術を活用した北部版インダストリー4.0の推進（例：医療素材とロボット技術の掛け合わせ等）
- 産業人材の確保・育成
 - ・インターンシップ、UIJターンなどの促進
 - ・大企業、立地企業と地元中小ものづくり企業が交流できる場づくり

5 由良川里山回廊構想

①構想の概要

中丹地域にある海、川、里、山、歴史、風土、伝統、文化等の資源を活かし、人、もの、情報などのネットワークの「回廊」の形成を目指しながら、自然や人々の絆を大切に、都市との交流の促進、農林水産業、ものづくり産業、観光やニューツーリズム振興などに取り組みます。

<主たる目標>

- 日本有数の清流を誇る由良川流域に点在する日本の原風景ともいべき里山の保全・再生や、日本人の生活文化を象徴する豊かな里山文化の振興が図られるとともに、里山をつなぐ美しい回廊が形成され、新しい観光スタイルの創出により交流人口が増加していること

②実施状況

<主な取組状況>

- 里山ファンの獲得
 - 中丹スポーツ観光の推進
 - ・SEA TO SUMMIT 開催等によるアウトドアスポーツ愛好者の誘客（参加者 4,060 人）
 - ・JAPAN ECO TRACK によるアウトドアスポーツフィールドの魅力为全国発信（記事掲載6回）
 - ・民間団体によるサイクリング、登山等のイベント開催支援（イベント参加者 559 人）
 - 里山への移住・定住の推進
 - ・移住促進条例に基づく特別区域の指定（指定 18 地区）
 - ・森や木の魅力を人や現場で触れて伝える体感ツアー開催（参加 49 人）
 - ・移住セミナー（参加 79 人）、田舎暮らし体感ツアー開催（参加 40 人）
 - ・京阪神等の大学生等に中丹地域の魅力を発信（中丹ファン SNS 登録者 2,918 人）
 - 魅力ある中丹の食づくりの推進
 - ・安心で、すっきりとした味を目指したジビエの生産工程管理制度の創設
 - ・中丹及び首都圏でのジビエフェア開催（参加 78 店）
 - 企業や府民の参加によるモデルフォレスト運動の推進
 - ・森づくり活動の参加などモデルフォレスト運動の推進（参加 1,201 人）
- 里山資源のブラッシュアップ
 - 大江山（古道）、奥上林（トレッキング）
 - ・大江山の古道復活、洞峠・古屋のトレッキングルートの整備
 - 「丹州材」による木の家づくり促進
 - ・木材利用フェアー等の開催（8 回、3,910 人）
 - 竹林整備・活用ネットワーク化
 - ・「竹のしごと人」育成セミナーの開催（育成人数 50 人）
 - 「丹波くり」のブランド・アップ
 - ・丹波くり生産者の担い手育成に向け講習会開催（4 回、54 人）

<今後の課題>

- サイクリング等による観光や農家民宿等への宿泊、さらにこれらを結びつける地

域食材を使ったうまいものメニューの開発や新商品開発を強化することによる一体的な取組が必要。海の京都の取組は丹後局との連携した打ち出しが重要

- 森の京都の取組である京都丹波ジビエの推進や農家民宿の活性化などは、南丹局との連携が必要
- 海・森の京都による、広域的な視点に立った役割分担の構築が必要

6 京都丹波「食と森の交流の都」構想

①構想の概要

芦生原生林や里山等の豊かな自然や丹波黒大豆や京野菜、丹波くりのような京の食文化を支える高品質な農林畜産物等の豊富な地域資源を総合的に活かして、これまでの都市・農村交流の取組をさらに促進し、交流人口の拡大や京都丹波産農林畜産物の生産・販売拡大による地域の活性化をめざします。

<主たる目標>

- 丹波黒大豆や京野菜、丹波くりに代表される山や里の恵み、豊かな自然、伝統文化などの地域資源を活かし、教育体験旅行をはじめとして、農家民宿、農家レストラン、クラインガルテンの開設などが進み、都市・農村交流の一大拠点となっていること

②実施状況

<主な取組状況>

- 教育体験旅行・教育民泊拡大に係る取組
 - [受入組織（京都丹波・食と森の交流協議会）の体制強化]
 - ・平成28年4月に一般社団法人化。南丹市八木町内に事務所が移転
 - ・7月からコーディネーターを2人体制にするなど、体制を強化
 - [教育民泊等の受入推進]
 - ・受入に係る研修会の実施（30回）
（農家組合等を対象にした新規受入研修会、安全衛生管理・マニュアル研修会、受入反省会、受入家庭交流女子会等）
 - [教育体験旅行受入拡大に向けた推進ツール等の作成]
 - ・「教育民泊年次別・市町別推進計画」策定（中丹域含む5市町）
＜受入目標：H31 民泊者数 4,160人＞
 - ・受入家庭向け推進パンフ「農山村教育民泊はじめませんか」作成
 - ・新しい教育体験旅行プログラム集（10プログラム掲載）作成

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
受入人数（人）	340	620	1,395	1,996	2,501	3,259
うち宿泊（人）	—	—	（試行）72	180	556	786
うちインバウンド					209	287

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
受入農家・団体数	20	36	74	148	249	287

※日帰り体験も含め受入した農家・団体数

- 「農家民宿」開業支援
 - ・ワンストップ相談窓口（消防・保健所・土木事務所等）を設置し、開業を伴走支援（管内農家民宿数：18戸、㊸開業支援7戸）
- 「京都丹波」イチ推しの食プロジェクトの展開
 - ・農産物直売所・道の駅とホテルグランヴィア総料理長がコラボし、新たな名物となる料理メニューを開発（5施設、9メニュー）
 - ・各メディアで発信し、各施設で定番メニューとして継続的に販売
 - ・森の京都「春の祭典」や「京都・和食の祭典」に出展・販売

<今後の課題>

- 教育体験旅行の受入については、一定の規模・体制が整ってきたが、さらに、大規模校にも対応できる受入地区や受入家庭の拡大、地域の状況に応じた運営体制の強化が必要
- 教育民泊に参加の学校は、京都市内私立校に偏っている現状にあり、府内の公立校や首都圏等をターゲットにした修学旅行等を取り込んでいく方策が必要
- 教育体験旅行の受入の核となっている一般社団法人京都・丹波食と森の交流協議会について、森の京都DMOとの機能分担も進めながらさらに持続的・発展的な事業展開が可能な体制強化を図っていくことが必要
- 構想の取組が、「教育体験旅行の推進」や食の魅力発信にとどまっており、京都丹波の地の利を活かした宿泊・滞在型の交流拡大等に直接結びつく施策展開が必要

7 新京都伝統工芸ビレッジ構想

① 構想の概要

民間の活力を活かし、平成24年4月に開学した京都美術工芸大学や京都新光悦村に立地する企業等の産学連携などを進め、京都丹波地域に、人づくりからものづくりまでを担う伝統工芸の新しい拠点を形成します。

<主たる目標>

- 京都新光悦村の全体が、企業の生産拠点や販売・体験施設、芸術家や職人の工房等で埋まり、伝統工芸の匠の技とハイテクの融合により、新しいタイプの製品等が生み出され、国内外から訪れる多くの観光客で賑わうとともに、京都新光悦村や京都美術工芸大学を核として、海外の作家やデザイナー等との交流事業が盛んに行われ、国際的な工芸村を形成していること

② 実施状況

<主な取組状況>

- 「森の京都」クラフトモール活用
 - ・京都新光悦村フェスティバル <「森の京都」関連イベント>
概要：若手工芸職人等の作品展示
子どもたちを対象とした体験イベント、工芸品の展示販売 など
開催日：平成28年10月8日（土）～9日（日）
参加者数：600人
 - ・移動式工房

概要：トレーラーハウス型の移動式工房（2台）を活用したPR
（広さ7.5畳相当、エアコン、コンセント、作業机、イス等）

利用実績：9回・延べ68日（他、28年3月に1回・延べ1日）

- 企業立地・集積
 - ・28年度分譲実績 0件 ※58区画中18区画分譲済
 - ・誘致交渉中案件 2件

＜今後の課題＞

- 現状を踏まえた新光悦村のあり方の検討
- 単なる賑わいづくりにとどまらず、新光悦村への入居につながる取組の実施
- 「森の京都」との連携・統合
- 若手職人育成事業の位置づけの見直し

8 北山文化環境ゾーン構想

① 構想の概要

北山地域において、京都学・歴彩館、教養教育共同化施設、府立植物園を核として、府民の憩いの場とともに、文化・環境・学術の新たな交流・発信拠点となるゾーンを形成します。

＜主たる目標＞

- 京都学・歴彩館、教養教育共同化施設、府立植物園等の府民開放型の各施設やレストラン、カフェショップなどに多くの府民が気軽に立ち寄り、豊かな自然の中で文化、環境、学術に親しむことのできる新しい交流・発信拠点となっていること

② 実施状況

＜主な取組状況＞

- 府民に開かれた新しい文化・学術ゾーンの形成（ハード）
 - 京都学・歴彩館の整備を推進
 - 平成29年4月グランドオープン
 - 「日本一おもしろい、心やすらぐ植物園」をコンセプトに、府立植物園の魅力向上に向けた基盤整備等を実施
 - ・東側（府大側）にゾーンの回遊性を高める新門（北泉門）を設置
 - 「総合資料館跡地活用等委員会」において、旧総合資料館跡地の活用や広場・プロムナードのデザインコンセプト等についての構想案を検討・策定
- 府民と一体となった文化・学術の振興（ソフト）
 - 京都学・歴彩館の開設準備及び開館後の事業を展開
 - ・一部オープン・グランドオープン時に、オープニング記念事業として、記念式典、シンポジウム、記念展示等を開催
 - ・西陣織・京友禅等の伝統産業の技術、日本画の伝統意匠、現代ファッションが融合したイベントの開催
 - ・国際シンポジウム、京都学講座（2回シリーズ）を開催
 - ・府内地域の文化資源について大学・研究機関と共同研究

- 府立植物園の魅力を高め、府民のいこいの場、教養の場として充実
 - ・多彩なイベント開催（京都さくらよさこい（4月）、春の植物園フェスタ（5月）、京の七夕会場として願い事コーナー設置（7月）、クラフトマルシェ（9月）、ガーデニングコンテスト（10月）、京都マラソン植物園周遊（2月））
 - ・4園館（動物園、水族館、青少年科学センター、植物園）連携事業
 - ・シンガポールの植物園との交流連携による展示やラン栽培等の技術導入（H28.5 協定締結）
- 教養教育共同化施設（平成26年6月完成）における3大学（府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学）の教養教育共同化推進
 - ・教養教育共同化のこれまでの成果と今後の展望を共有するフォーラム「今、求められる教養教育－京都からの発信－」（11月）を開催
- 「北山文化環境ゾーン交流連携会議（北山ぱーとなーず）」
 - ・事業連携の実施（「京都きたやま紀行」写真展（年間）、北山ハロウィン、北山イベントラリー、「光の庭」北山アートプロジェクト（10月、11月）、「北山こどもモザイク展」歴彩館祝祭（12月、1月））
 - ・一体的な情報発信（イラストマップ改訂版発行（2月）、フェイスブックによる情報発信（年間））

<今後の課題>

- 北山全体のランドデザイン
- 現総合資料館跡地活用や広場・プロムナードの整備等についてどのような方向・視点で整備を進めていくべきか検討
- ハード整備を有効活用し、施設相互に相乗効果を上げられるようなソフト戦略の検討

9 京都クロスメディアパーク構想

①構想の概要

太秦地域に映画制作・編集・配信等の技術開発や、コンテンツ系ベンチャーの育成支援、国際交流、観光振興、人材育成等の機能をあわせ持つ一大メディア産業拠点を形成します。

<主たる目標>

- 映画・アニメ・ゲームなどクロスメディア分野の企業が数多く集積し、世界の市場の中で、京都が独自のマーケットを確立するとともに、エリア内では、国内外から多くのクリエイターが集い、メディア間の交流により新しいコンテンツが生み出され、世界に発信されていること

②実施状況

<主な取組状況>

- KYOTO CMEX 2016 の開催によるクロスメディア展開、国際交流、人材育成、マーケット開拓を促進
ヒストリカ映画祭と東京国際映画祭(TIFF)との連携

- (AFA(アジアフィルムアワード)との連携「TIFF 京都 week」)
- 国内外のクリエイターを集めた若手人材育成の実施
 - ・「Kyoto Filmmakers Lab 2016」の実施
54名参加 (全体：42ヶ国247名の応募から選考)
- 映画企画市の開催及びパイロット版の製作
 - ・応募数15件 優秀賞『黒の牛』 企画者：映画監督
 - ・前年度作品『大江戸キャノンボール』等の報告会の実施
- 京都クロスメディア戦略推進拠点(KCROP)の設置運営によるコンテンツ関連企業支援及び人材育成
- 「ロケスポット京都」によるロケ地の情報発信及び府内市町村の連携強化(掲載スポット数490件、映画、TVなど171作品の撮影実績)
 - ロケ誘致と同時に、資金調達に関する紹介として、日本国内におけるクラウドファンディングの紹介等を実施
- 「京都チャンネル」(動画で観光や物産情報など、京都に関する様々な情報や魅力の総合発信) ネット放送局の創設へ向けアプリ開発及びデモサイトの構築
- 太秦を核とした産学公連携による京都クロスメディアパーク推進会議の設置

＜今後の課題＞

- 京都クロスメディア戦略推進拠点(KCROP)の設置運営による人材育成及びコンテンツ関連企業支援
- 次世代を担う人材育成と市場開拓及び企業誘致
- 時代劇の後継者育成、オープンセット用地の建設・活用
- JETRO 京都センターとの連携

10 知恵産業首都構想

①構想の概要

次代を切りひらく産業イノベーションをリードする「京都産業育成コンソーシアム」を創設し、知恵を集め、知恵を学び、知恵を活かす中小企業が元気に世界で活躍する知恵産業のまち・京都を形成します。

＜主たる目標＞

- 中小企業をはじめとする多くの京都企業が、独自のオンリーワン技術に磨きをかけ、オンリーワン製品を創造したり、業界・業種を超えたコラボレーションにより、現代のライフスタイルに適合した新しいサービスを提案するなど、京都産業全体で「知恵」を活かしたビジネスが実践されていること

②実施状況

＜主な取組状況＞

- 京都ブランド推進事業・中小企業総合応援事業(知恵ビジネス成長支援事業)
 - 知的財産活用の推進(知的財産総合サポートセンター活動)
 - ・相談員相談 284件(H27：235件)
 - ・弁理士相談 112件(H27：79件)
 - ・弁理士府内巡回相談 50件(H27：37件)
 - 成長ステージに応じた企業支援(「知恵の経営」等の取組)

- ・小さな巨人（職員による企業発掘） 21 社
- ・知恵の経営認証（強みの発掘） 14 件(H27：30 件)→累計 185 件
- 元気印認定（強みの活用） 27 件(H27：29 件)→累計 233 件
- （※不動産取得税の軽減措置 6 件→累計 8 件）
- 経営革新承認（強みの活用） 64 件(H27：24 件)→累計 671 件
- 合 計 105 件(H27：83 件)→累計 1,089 件
- ・チャレンジ・バイ認定 33 件（H27：24 件）→累計 68 件
- ・知恵ビジネスプランコンテスト認定 6 件(H27：5 件)→累計 47 件
- （※京都知恵産業支援共同事業 採択 40 件）
- 京都ブランドの推進（京都ブランド推進連絡協議会推進事業）
- ・「kyoto Japan」ロゴマーク登録 18 件→累計 222 件
- ・「京・知恵舞台」認定等企業 10 社のプレゼン（BP フェアと同時開催）
- 「京の老舗」知恵の経営発信事業
- ・大学等との交流（龍谷大学コラボ講義、事業承継学会等） 5 回、133 名

<今後の課題>

- アフターフォローの強化
- 応援隊等による個別のサポートに加えて、エコノミック・ガーデニング推進センター活動（応援隊と府、その他関係機関とテーマ別の部会活動を実施）等により、企業の経営発展を効果的に支援

11 京都乙訓ダイナミックシティーズ構想

①構想の概要

京都市に隣接し、竹をはじめとする豊かな自然や優れた歴史文化資産、世界的な先端企業の立地に恵まれるとともに、京都第二外環状道路（にそと）・京都縦貫自動車道の開通等により、府域の東西南北を結ぶ新たな交通の要衝地になりつつある乙訓地域に、観光、産業等の高次都市機能が集積し、向日市・長岡京市・大山崎町の都市連携により、京都府の新たな成長核としてダイナミックに発展する圏域を創出します。

<主たる目標>

- 淀川三川合流地や西山の竹林、洛西散策の森等の自然、長岡京跡や大山崎山荘等の歴史文化資産、世界有数の先端企業、キリンビール京都工場跡地の大規模商業施設、向日町競輪場、激辛食で有名な商店街など、この地にある多様性に富んだ地域資源が有機的に連結され、観光やビジネス等で多くの人々が行き交い、躍動感あふれる都市圏が形成されていること

②実施状況

<主な取組状況>

- 多目的型ニューツーリズムの創造
- ・「京都・乙訓地域観光振興のためのプラットフォーム」を立ち上げ、旅行会社へのアンケート調査を行ったほか、乙訓地域の観光資源の掘り起こしなど地元住民を中心としたワークショップ等を開催
- ・「京都・かぐや姫観光推進協議会」を設置し、乙訓管内の市町、商工会、観光協会及び京都府が連携して、観光振興を推進するための体制を整備

- ・「竹の里・乙訓」と「もうひとつの京都」を結ぶ大物産展を開催
(来場者数 8万人)
- ・乙訓地域を巡るバスツアーの実施(11回)

○「若竹」産業創造プロジェクトの推進

- ・防草のため、竹チップを公共施設植栽周辺等への頒布や竹の粉末、竹炭による土壌改良研究、農作物の鮮度保持の研究
- ・天王山周辺に山桜を植生
- ・「京の七夕」の装飾等資材として放置竹林を活用

<今後の課題>

- 情報発信力の強化と観光客受入の環境整備

12 宇治茶の郷づくり構想

①構想の概要

日本を代表するブランドである宇治茶を核として、JR奈良線の複線化とタイアップしながら、観光振興、ブランド農産物輸出、集客ビジネスなどを一体的に推進します。

<主たる目標>

- 宇治茶の歴史、文化、美味しさ、効能などが国内外に浸透し高く評価され、生産が拡大することにより茶農家の所得が向上するとともに、美味しいお茶とお茶の文化を堪能できるイベントにより「お茶のまち」としてのイメージが全国で定着し、多くの観光客で賑わっていること

②実施状況

<主な取組状況>

- トップブランドとしての宇治茶の生産振興
 - ・「宇治茶GAP」による良質で安心・安全な宇治茶生産の支援
 - ・市場において「宇治茶GAP」の表示：2月1日現在実践535戸
 - ・研修会の開催（1/12：指導者、2/16：指導者・点検者、3/9：生産者向け）
 - ・承認：累積163工場
 - ・優良品種への新植及び改植、高品質なてん茶生産に必要な被覆棚整備（和束、南山城村等7市町村）や、てん茶工場の整備2か所（和束町、南山城村）、茶冷蔵施設の整備（宇治市）
- 宇治茶の世界文化遺産登録の推進
 - ・シンポジウム、文化講座の開催：7回
- 「お茶の京都」魅力の発見・発信の推進
 - ・「おもてなし」ができる人材確保のため「宇治茶ムリエ」養成講座を開催（認定者：H27年度664人、H28年度は800人）
 - ・小学生を対象とした「キッズ『茶ムリエ』検定」等によるお茶育の実施（H27年度認定者142人、H28年度は5回開催、認定者189人）
 - ・「お茶の京都」ターゲットイヤーの「お茶の京都博」に向けた、「UJI-CHA Fair2016」の実施（対象イベント数：67箇所、来場者数：522,118人）
 - ・SNS（H29.3末現在ページへのいいね：約4,700人）や「宇治茶まつり」の開催（11/12

開催 参加者25,000人)、メールマガジン(月1回、H29.3末登録数606人)の発行等による宇治茶の魅力発信

- ・日本遺産「日本茶800年の歴史散歩～京都・山城」のストーリーをつなげた「お茶所バス」の運行等による魅力発信(2日間:2/26、3/26開催、定員35人)
- ・やましろ八十八選の選定(95件応募)、日本遺産に認定されたストーリーを構成する文化財等を巡る「やましろ100ちーたび」(42旅企画)等、宇治茶を中心とした「京都やましろ」の歴史・文化をテーマにした観光の推進
- 「宇治茶かおり回廊」整備の推進
 - ・案内看板等の整備(6市町村、案内板25基・解説板14基)

＜今後の課題＞

- 香り高い宇治茶の生産振興の推進
 - ・宇治茶の海外輸出に向けた取組
 - ・宇治茶の一層のブランド化
 - ・宇治茶の革新的技術開発や新商品開発・販売の確立
- 宇治茶の歴史と文化の再発見運動の推進
 - ・山城地域の住民の多くが宇治茶の魅力を語り、美味しく淹れられることを目指して、外部等の協力も得て宇治茶ムリエ講座の開催拡充が必要
 - ・宇治茶が飲めるカフェの出店増加に伴い、「宇治茶カフェ」に認定し、宇治茶を普及拡大する必要
- 宇治茶の魅力を活かした観光づくりの推進
 - ・山城管内の宿泊施設及び交通手段の確保

13 京都イノベーションベルト構想

①構想の概要

地域の企業間の連携を進め、高度な技術と国際的な競争力を備えた製品開発などを重点的に支援し、京都経済の牽引エリアとしての一層の成長を促進します。

＜主たる目標＞

- 人口当たり日本一の大学設置数を誇る京都の特性を最大限活かし、京都市域から学研都市に至る地域にベンチャーから中小中堅、大企業まで、絶え間ないイノベーションに取り組むものづくり企業が数多く進出・立地し、次代の京都経済・産業を牽引する地域として発展していること

②実施状況

＜主な取組状況＞

- KICK 関係
 - ・新たに7事業者がKICKにおいて本格稼働
 - ・KICKへの入居を目指す10の共同研究グループを組成
 - ・理研との具体的な共同研究テーマについて検討
 - 1月:「子どもの能力開発・脳科学研究プロジェクト」研究会発足
 - 2月～3月:子どもを対象とした体験型ワークショップの開催
 - ・「KICK発・スター創生事業」による大学発ベンチャー等への資金調達マッチング支援

- 特区関係
 - ・国家戦略特区（府関係）で2件の区域計画を認定（累計5件）
 - ・精華町役場にて電動車両向け無線電力伝送の実証実験開始
 - ・国際戦略総合特区の新計画認定。高の原駅前再開発地域の区域拡大
- iPS 関係
 - ・iPS ビジネス推進センターを構築（iPS ネット参加127社3月末）
 - ・iPS 関連人材の育成研修会（8回計55名）、セミナー（2回計250名）
- その他
 - ・新たな健康産業創出を目指すヘルスケア関連事業計画の認定（5件）

＜今後の課題＞

- 特区関連
 - ・国家戦略特区の活用推進
- 理化学研究所との共同研究の推進
 - ・具体的な研究テーマの設定とグループの発掘
- KICK の活用
 - ・大空間を埋める大規模プロジェクトの誘致
 - ・国際シンポジウム等イベントの誘致

14 学術研究・未来の都構想

①構想の概要

関西文化学術研究都市において、世界レベルの情報や環境、健康（医療）、農業（食）などに関する科学技術の粋を結集し、科学技術と生活文化が融合した新たな都市を創造します。

＜主たる目標＞

- 情報、環境・エネルギー、健康・医療等の分野における研究機関等が数多く立地し、最先端の科学技術やシステムを社会・生活に取り入れた未来都市が形成されているとともに、地域のエネルギー利用の最適化を図るマネジメントシステムの導入が進み、世界の環境・エネルギー問題の解決に貢献するモデルとして国内外に発信されていること

②実施状況

＜主な取組状況＞

- 京都スマートシティエキスポの開催による京都けいはんなからのスマートシティの発信、新たな市場の創造促進
 - ・開催日 平成28年6月1日～3日
 - ・開催場所 国立国際会館及びKICK
 - ・来場者 10,221人（うち海外28ヵ国474人）
- APECTEL54（第54回電気通信・情報作業部会）の開催による国際的な研究交流やビジネス交流の促進
 - ・開催日 平成28年10月31日～11月4日
 - ・開催場所 けいはんなプラザ
 - ・11月2日に京都府主催でエクスカーション及びレセプションを実施

- RDMM 支援センターによる研究開発の支援
 - ・RDMM 支援センターの設立 平成 28 年 4 月設立
 - ・コンソーシアムの設立 平成 28 年 5 月
 - ・住民協働プラットフォーム「Club けいはんな」の発足 (611 人)
 - ・コンソーシアムの参画企業・研究機関数 69 企業・研究機関
 - ・「農食」「健康」「モビリティ・エネルギー」「新テーマ創出」に関するワーキング活動の実施
 - ・大阪大学との連携による「ナノテク高度人材育成プログラム」を提供し、企業の若手研究開発者を育成
 - ・大阪大学・奈良高専との連携による「パワーエレクトロニクス(発電、高圧電機等)技術講座」を開催し、企業の若手研究開発者を育成
 - ・京大デザインスクールの協力によるワークショップ(アイデアソン)の開催
- リサーチコンプレックスの本採択
 - ・産学公による脳・五感・ICT 等をテーマとした異分野融合研究開発の推進
 - ・プロデューサー人材の輩出やけいはんなイノベーションハブの形成によるけいはんなイノベーションエコシステム構築の推進
- 南田辺西地区の開発
 - ・土地利用計画・公共施設整備などの開発計画を策定し、民間事業者による事業化と早期整備を推進

＜今後の課題＞

- 地方創生とそれを支える地域の産業創生のモデルとなるスマートモビリティ等のスマートシティづくりの具体的取組の実施
- 持続的にイノベーションを創出するための新たなシステムの構築
- スマートシティづくりの自治体連携及び府内各市町村への普及・拡大

15 環境・アグリバイオパーク構想

①構想の概要

関西文化学術研究都市において、環境・アグリバイオの研究拠点を整備し、関連する研究機関や研究開発型産業施設が集積する国際研究開発拠点を形成します。

＜主たる目標＞

- 関西文化学術研究都市内に立地する植物工場やバイオ関連の企業・研究機関、京都府立大学や京都大学の農場等で、アグリバイオを活用した新しい工業材料や医薬品などの研究開発や生産が活発に行われ、日本におけるアグリバイオの一大拠点となっていること

②実施状況

＜主な取組状況＞

- 立地機関等のスマート化の推進及び未来都市の発信や体験・学習ゾーンによる環境学習等の実施
 - ・けいはんな e 2 未来スクエアの運営 来場者 約 1,800 人
 - ・けいはんな学研都市への視察の受入 115 件

- ・環境学習会の開催 参加者 約 750 人
- 府立大学精華キャンパスにおける次世代型植物工場での実証・研究開発の推進
 - ・健康増進に必要な成分を増強し、安心安全、風味・食感にも配慮した高付加価値野菜（「けいはん菜」と総称）の開発に成功
 - ・薬用人参の大幅な栽培期間短縮と薬効成分増強の技術検証のため、試験栽培を開始
- 京都大学との連携による ICT を活用した宇治茶生産管理システム（スマートアグリ）などの実証事業の実施
 - ・茶業研究所において、茶園内環境データを無線通信機器により収集できることを確認
- 茶摘み体験やマルシェなど、地域の強みを生かした相楽地域内の連携強化
 - ・茶摘み体験
 - 開催日時 平成 28 年 5 月 22 日(日) 10:20～16:00
 - 開催場所 グリンティ和束（和束茶カフェ）
 - 参加者 けいはんな学研都市関係者を含む 61 名が参加
 - ・山城マルシェ in けいはんな
 - 開催日時 平成 28 年 9 月 17 日(土) 10:00～15:30
 - 開催場所 けいはんなプラザ 日時計広場
 - 出展団体 山城地域農業者や加工食品団体など 21 団体が出展
- 京大農場の運用開始
 - ・平成 28 年 4 月

<今後の課題>

- 府立大学及び京大農場等の取組をパイロットモデルとして事業化、けいはんな学研都市内への立地、海外展開等に向けた民間企業との連携方策の確立
- 立地後におけるアグリバイオ分野の研究促進・連携強化に向けた関係機関等との調整

4 3つの京都づくり

京都府では、中期計画及び地域振興計画の主要プロジェクトである「みやこ構想」の進展を踏まえ、広域的に地域のコンセプトを明確にした「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」づくりの3つの京都プロジェクトを推進し、府域の均衡ある発展のためのスケールの大きな交流を展開することとしている。

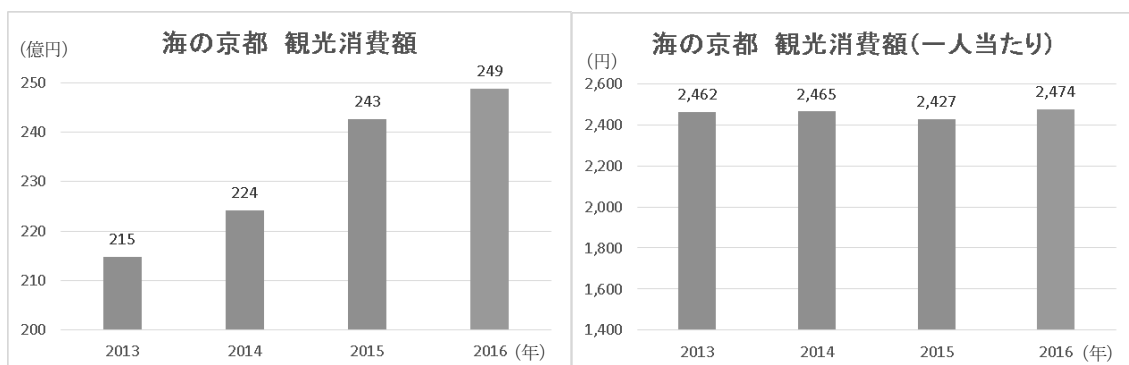
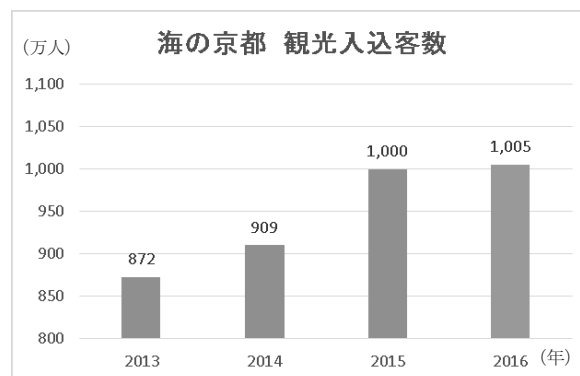
以下には、3つの京都プロジェクトに関連する指標の状況やプロジェクトの取組状況、今後の課題を示す。

「海の京都」づくり（京都の海を活かした取組）

1 構想の概要

古代より大陸との交流の窓口として栄えた歴史的背景や交通基盤整備の進捗を活かし、「海」というキーワードのもと、府北部地域が全国有数の競争力のある観光圏となることをめざします。

2 関連指標の状況



3 実施状況

①主な取組状況

- 日本遺産「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」の認定（平成29年4月）
- 観光地域づくりの総合プロデューサーとして7市町の観光協会が統合参画する海の京都DMOを設立
- 海の京都観光地域づくり戦略を策定
- 200の着地型旅行・体験型商品の開発 等

②今後の課題

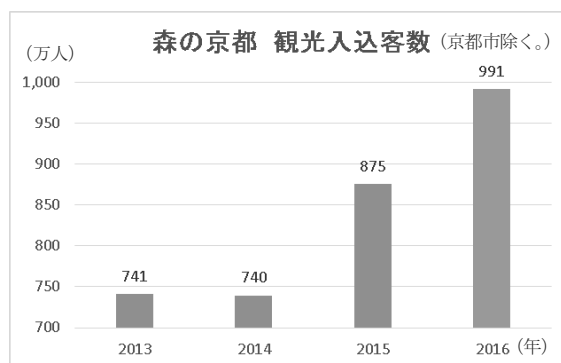
- 観光消費額の拡大等に向けた地域の稼ぐ力の創出と取組の推進
- 海の京都DMOを中心とした、地域間連携の確立
- ブランド観光地域の認定（平成31年度）に向けた取組の推進
- データ分析等を踏まえた観光人材の育成・確保や商品開発、地域づくりの推進
- インバウンド対策の推進 等

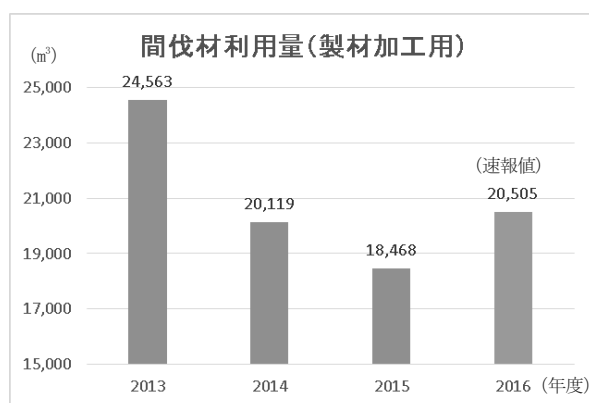
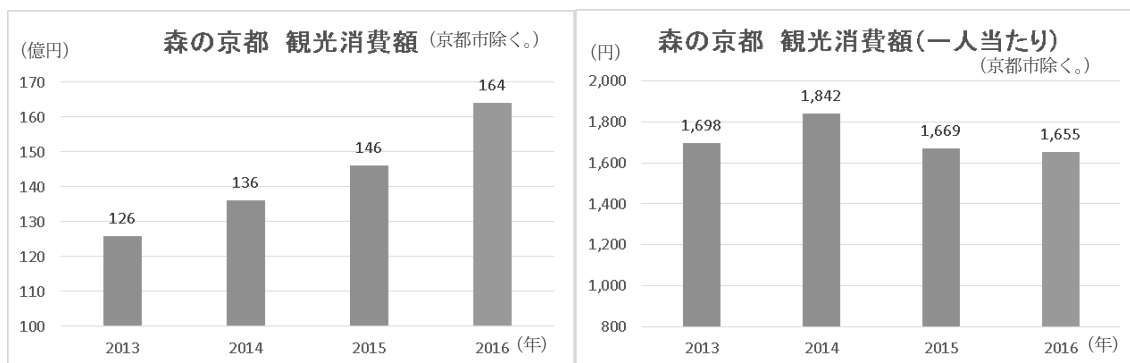
「森の京都」づくり（奥の深い森や里山を活かした取組）

1 構想の概要

我々の生命を育む源でもある「森」をテーマにし、森・川・里の織りなす景観や環境・文化・生活を多面的な角度からとらえ未来に受け継ぐとともに、発信し、多角的に活かす地域となることを目指します。

2 関連指標の状況





3 実施状況

①主な取組状況

- 京都丹波高原国定公園の新規指定
- 年間を通じた交流型イベント「森の京都博」を開催
 - ・年間 330 を超えるイベントに約 145 万人が来場
- 「第 40 回全国育樹祭」を開催
- 観光地域づくりの総合プロデューサーとして森の京都 DMO を設立

②今後の課題

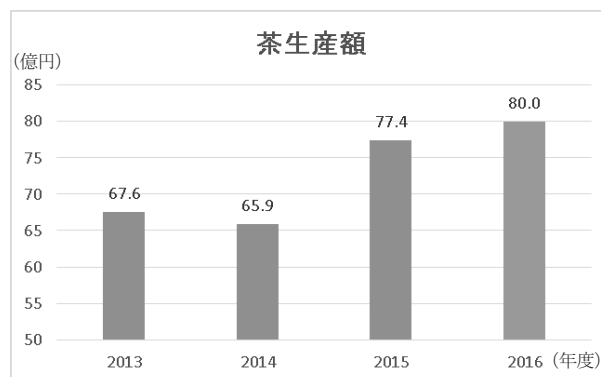
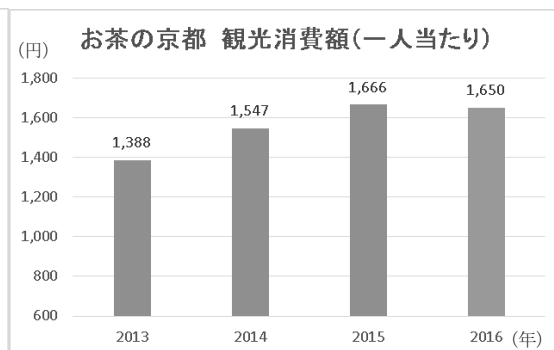
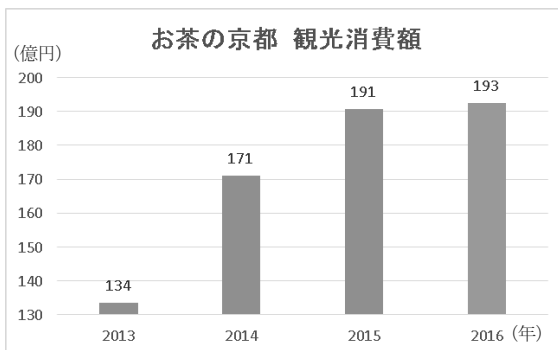
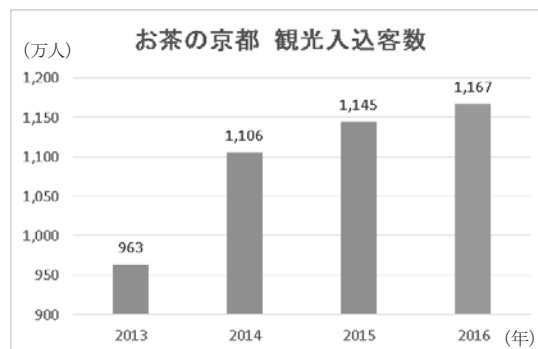
- 森の京都 DMO による「森の京都」の持続的展開
 - ・森の恵みや文化を体感・享受できる拠点、コンテンツづくり
 - ・森の京都事業への実践者の掘り起こし・巻き込みを通じた継続的な実行力の確立・展開の推進
 - ・マーケティングに基づく「観光地域づくり戦略」の策定と総合プロデューサーとしての機能発揮（商品開発、ブランド化、人材育成、プロモーション等）
- ポスト「森の京都博」におけるレガシーの継承と受入基盤の強化
- 林業振興と森林文化の継承 等

「お茶の京都」づくり（宇治茶生産の景観を活かした取組）

1 構想の概要

我が国で最も長い歴史を有する茶生産地であり、今なお素晴らしい景観を形成し、最高品質の緑茶を産出する地において、宇治茶をテーマに、お茶生産の美しい景観維持やお茶文化の発信等を通じ、人やものの交流が盛んな地域となることをめざします。

2 関連指標の状況



3 実施状況

①主な取組状況

- 日本遺産「日本茶 800 年の歴史散歩」～京都・山城の認定（平成 27 年 4 月・平成 28 年 4 月変更認定（構成文化財の追加））
- 「お茶の京都」の各戦略拠点のマスタープランの策定（12 市町村で策定完了）
- 茶業研究所の機能強化整備に係る実施設計の策定
- 「Uji-Cha Fair2016」の開催・お茶所バスの運行
- 観光地域づくりの総合プロデューサーとしてお茶の京都 DMO を設立
- 「お茶の京都博」のプレイベントの開催
- パリにて Association de the UJI（宇治茶愛好会）の発足
- 宇治茶プレミアムブランド化の推進

②今後の課題

- 宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承
- 交流エリアの創出、ネットワーク化
- 茶業研究所を核としたお茶産業のイノベーション創出
- 宇治茶文化・魅力の効果的プロモーションと観光誘客
- 地域が一体となった「お茶の京都博」の実施
- お茶の京都DMOによる「お茶の京都」事業の展開 等
 - ・お茶の文化や景観等を体験・享受できる拠点、コンテンツづくり
 - ・お茶の京都博と一体となった観光地域づくりの推進
 - ・マーケティングに基づく「観光地域づくり戦略」の策定と総合プロデューサーとしての機能発揮（商品開発、プレミアムブランド化、人材育成、プロモーション等）